

書名	流星ワゴン	出版年 (西暦)	2002年
著者・編者	重松清	出版社	講談社
学部・研究科	教育学部情報文化課程社会文化コース	学年	1年
<p>もし、自分の人生をやりなおせるなら…。</p> <p>誰もが抱いたことのある気持ちだろう。</p> <p>「流星ワゴン」に乗って、主人公は自分の過去に戻ることになる。</p> <p>過去の分岐点となった時間、場所へ…。</p> <p>結果の分かった今だからこそ、彼は自分の行動の意味を考える。過去を見つめなおし、どうすればよかったのか悩む。</p> <p>彼は未来を変えることができるのか……。</p> <p>「重松清」は私が中学生の頃からずっと人気で、有名な作家だった。</p> <p>でも、私はなぜかその時みんなが読んでいる重松清の本を読みたくなかった。ひねくれていたのかもしれない。</p> <p>大学生になった今、ふと、なんだか重松清の本を読んでみたくなった。</p> <p>手に取ったのは、この「流星ワゴン」。</p> <p>読み始めると、すぐに引き込まれた。</p> <p>情景が鮮明に目に浮かぶ。星空の下終電が行ってしまった駅にたたずむ一人の男。そこにやってくる一台のワゴン車。そこから様々な出会いが始まる。</p> <p>設定も文体もすべてが面白い。登場人物の気持ちが痛いほど伝わってくる。</p> <p>私は大学生になって、はじめて重松清にハマってしまった。</p> <p>もし自分の人生をやりなおせるなら、私は中学生に戻って重松清の本を読んでおきたい。</p> <p>確実に、今感じているものとはまた違った、何か大切なものを得られるから。</p> <p>でも大学生の今、重松清の本を読むことにも大切な意味がある。今しか感じられない何かがあるから。私はこの本を読んで人生観が変わった、と言っても過言ではない。</p> <p>もっと大人になった後もう一度読み返して、新たにまた何かを感じ取りたいと思う。</p>			